

2025 年度 第 52 回総会・第 51 回研究大会

2025 年 7 月 5 日(土)～6 日(日)
國學院大學渋谷キャンパス(東京都渋谷区東 4-10-28)
学術メディアセンター1 階 常磐松ホール・多目的ホール
及びオンライン
主催:全日本博物館学会 協力・協賛:國學院大學

7 月 5 日(土)

11:30～12:30 2024 年度第 6 回定例委員会・2025 年度第 1 回定例委員会(※役員のみ)

12:00～ 開場

12:30～13:15 第 52 回総会(※対面開催)

13:40～18:20 第 51 回研究大会・口頭発表(発表 15 分・質疑応答 5 分)

1	瀧端真理子(追手門学院大学) COVID-19 期を中心とする V&A の経営戦略
2	久保内加菜(鎌倉女子大学) 後期中等教育段階の青少年を対象とした公立美術館の教育事業
3	村尾優華(東京藝術大学大学院) 絵画鑑賞に五感を取り入れる感性向上効果:絵画と音楽の相互補完
4	小笠原喜康(日本博物館教育研究所) ハンズオンその先へ:多層的展示参加序論
5	福嶋純之(人と防災未来センター) 震災資料のデジタルアーカイブ:人と防災未来センターを例に
6	木村文(帯広畜産大学) 脱ロシア化としての博物館展示:リトアニア国立博物館における「甘い(ノームクラトゥーラの)暮らし(Saldus (nomenklatūros) gyvenimas)」展
7	魏雯君(北海道大学大学院) 北海道博物館における外国人来館者の観覧行動と意識変容に関する調査

(16:00～16:20 休憩)

8	江水是仁(東海大学) 来館者の来館前後の行動分析の特徴による地域の活力に与える影響
9	侯冰倩(北海道大学大学院) 日中両国における文化財保存・修復人材養成教育の発展過程と現状:大学教育を中心に

10	邱君妮(国立民族学博物館) 国際研修を通じた博物館における DEAI 概念の実践可能性:オランダ「論争のある歴史認識について語り合う研修(SSOCH)」の事例から
11	武井二葉(明石市立文化博物館) 社会教育調査における博物館類似施設の実態と文化資源としての可能性
12	下湯直樹(日本オリンピックミュージアム) アクセスシビリティの高いミュージアムを目指して:日本オリンピックミュージアムでの実践を中心に

18:40～20:40 情報交換会(※対面開催)(若木タワー18階 有栖川宮記念ホール)

7月6日(日)

9:00～12:00 第51回研究大会・口頭発表(発表15分・質疑応答5分)

13	堀江典子(佛教大学) 高速道路等における博物館的機能の現状
14	海上尚美(北九州工業高等専門学校) 博物館と地域と学校の協働による「小倉織」普及のための教材開発
15	久保田荻須智広(東京藝術大学大学院) 負債化する芸術作品:東京藝術大学大学美術館と東京藝術大学から見る現代美術収蔵問題の構造分析と制作における応答
16	田中裕基(明治大学大学院)、伊豆原月絵(日本大学)、安福紘大(岐阜かかみがはら航空宇宙博物館) 大学キャンパスにおける天体観望会を通じた科学教育と博物館への関心喚起の試み:学芸員養成課程の教員・学生・学芸員による協働の実践

(10:20～10:40 休憩)

17	徳澤啓一(岡山理科大学) 文化観光を支える博物館とその展示:タイ・バンコクとその近郊の事例を中心として
18	寺田悠紀(東京大学) なぜ今、科学技術博物館なのか?:イラン国立科学技術博物館の事例から
19	大森麻由子 実践報告:多様性重視をミッションとするシカゴ美術館におけるギャラリーボランティアとはーメトロポリタン美術館でのドーセント経験との比較から
20	中谷大輔(長崎市恐竜博物館) 「化石のミカタ展」に見る移動博物館の可能性:長崎市恐竜博物館の実践から

12:00～12:50 昼休憩

12:50～14:10 第 51 回研究大会・ポスター発表（※対面開催）

A	富澤由規子(御船町恐竜博物館) 他者との間接的な対話が及ぼす思考への影響調査: 正解のない問いを発端として
B	村野正景(静岡大学) 博物館 DX の第一歩: カメラ性能比較による資料のデジタル化の検証
C	持田誠(浦幌町立博物館) 返還されたアイヌ遺骨の副葬品を博物館で展示することの意義と課題
D	宇仁義和(東京農業大学)、上原嘉宏(日本工業大学)、森田聡美(岡谷蚕糸博物館) 量産品の資料名称: 近代模範用品と工業製品
E	井上裕太(弘前学院大学) 地域資源としてのスポーツ資料: 徳島県阿南市(野球のまち阿南)の事例から考える
F	並木美砂子(帝京科学大学) ふれあいプログラム参加の有無による「動物の状態への関心」の違い
G	神辺知加(東京国立博物館) 戦後初の国立の博物館、構想から誕生まで
H	佐藤優香(東京大学)、武井二葉(明石市立文化博物館) 博物館人材育成のための研修デザイン: 自律したボランティア活動のための学び
I	劉高力(北海道大学大学院) 感覚・共感・対話を生む展示空間の構築: 南アジア・東南アジアの民族学博物館におけるデジタル化について
J	三河内彰子(東北大学) 文化財・自然史財と新たな学際領域研究、文理融合のカたち: 東北大学金属材料研究所 新知創造学際領域形成(学際ハブ)事業
K	横田由真(京都大学大学院) 「返還」問題からみるケニア国立博物館の博物館史
L	小瀬戸恵美(国立歴史民俗博物館) 錦絵、絵巻物への視線移動の検証
M	卓彦伶(北海道大学) 社会課題解決に向けた博物館人材育成の実践: 「対話」と「寄り添い」を軸にした取り組み
N	竹下春奈(明治大学大学院) 遺跡救済活動における展覧会の役割: 遺跡の「価値」に関する記述に着目して
O	藤田茂(東京都環境局) 自然史資料の価値創造
P	金尾滋史(滋賀県立琵琶湖博物館) 博物館のレファレンス機能を評価するために必要な情報とは?

14:20～17:40 第 51 回研究大会・口頭発表（発表 15 分・質疑応答 5 分）

21	田中裕二（静岡文化芸術大学） 郷土教育と郷土館の成立：東京郷土資料陳列館と武蔵野郷土館
22	西源二郎（元 東海大学） 水族館の展示に関する研究：実験行動的展示について
23	伊豆原月絵（日本大学）、藤井英（株式会社アートフリーク）、藤崎知輝（日本大学） 科学館における音環境の変容とその対応策：来館者啓発を目的とした参加型ワークショップの実践と考察
24	三木暁了、奥山英登、永石理恵（国立アイヌ民族博物館） ギャラリートークを通じた働きかけ：生物多様性の保全と文化多様性の尊重について
25	大瀧拓実（明治大学大学院） 日本における明治・大正期の「野外博物館」の認識について

（16:00～16:20 休憩）

26	田原よし乃（東京大学大学院） 「負の遺産」の提示・継承における複数の立場とミュージアム：ダンカン・キャメロンの議論を手がかりに
27	戸田孝、芦谷美奈子、金尾滋史（滋賀県立琵琶湖博物館） 博物館評価に必要な活動記録の保持
28	佐藤優香（東京大学）、笹木一義（国立アイヌ民族博物館）、五月女草子（国立民族学博物館）、 奥山英登（国立アイヌ民族博物館） 博物館のプログラム開発における考慮：アイヌ文化学習を事例に
29	島絵里子（北海道大学大学院） 1998 年開催シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアムをめざして一視覚障害者と博物館一」から 27 年：博物館の取り組みをたどる
30	五月女賢司（大阪国際大学） ザンビア共和国におけるコミュニティ・ミュージアムの現在地：地域社会が共に作り上げる“ミュージアム”の可能性

* 交通アクセス

【渋谷駅からのアクセス】

渋谷駅(JR 各線・地下鉄各線・東急各線・京王井の頭線)から徒歩約 13 分

渋谷駅(JR 各線)新南改札から徒歩約 13 分

都営バス(渋谷駅東口バスターミナル 54 番のりば 学 03 日赤医療センター前行)「国学院大学前」下車
(運賃 180 円・IC178 円)【渋谷駅から 3 番目の停留所、所要時間約 10 分】

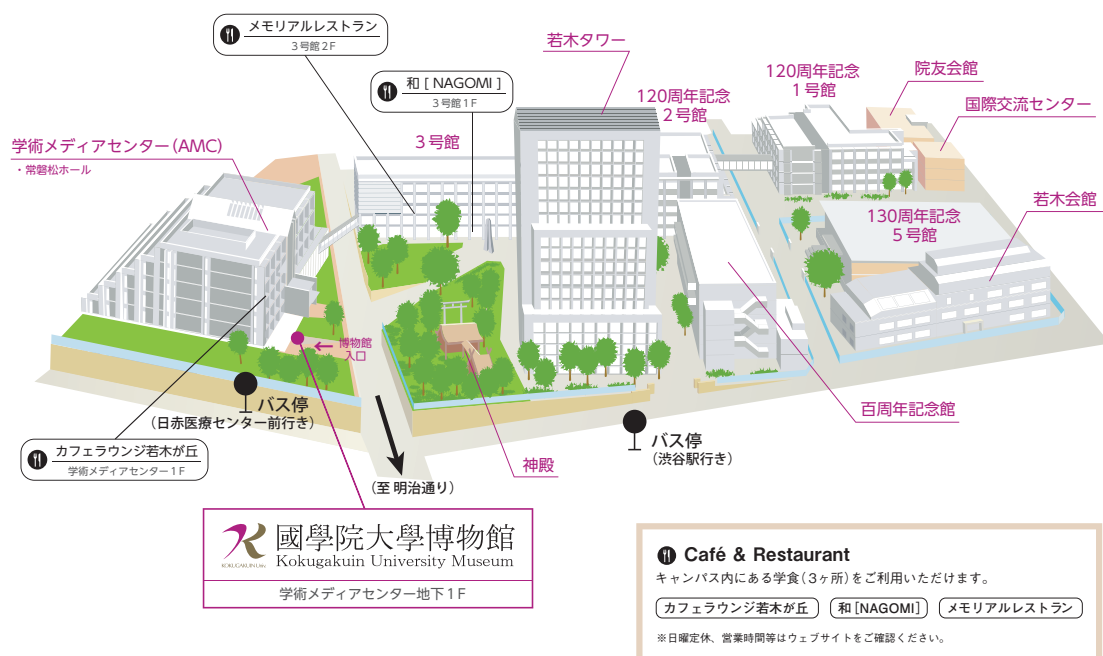
【表参道駅からのアクセス】

表参道駅(地下鉄半蔵門線・銀座線・千代田線)B1 出口から徒歩約 15 分

【恵比寿駅からのアクセス】

恵比寿駅(JR 山手線・埼京線・湘南新宿ライン、地下鉄日比谷線)から徒歩約 15 分

都営バス(恵比寿駅西口ロータリー1 番のりば 学 06 日赤医療センター前行)「東四丁目」下車
(運賃 180 円・IC178 円)【恵比寿駅から 3 番目の停留所、所要時間約 10 分】



* その他

- ・会場にはネットワーク環境がありませんので、ご注意ください。
- ・会場では、ご持参のお弁当をいただけるスペースを用意していますので、ご利用ください。
- ・国学院大学学食(※会期中は土曜日のみ営業)のほか、近隣にコンビニエンスストア等もございますので、ご利用ください。学食の詳細については、右リンク(<https://www.kokugakuin.ac.jp/about/information/p13>)をご覧ください。
- ・国学院大学博物館は、常設展・企画展共に無料でご覧いただけます。当日は、国立アイヌ民族博物館との共催による特別展「アイヌモシリーアイヌの世界と多様な文化―」を開催しておりますので、ご覧ください。国学院大学博物館の詳細については、右リンク(<http://museum.kokugakuin.ac.jp/>)をご覧ください。
- ・オンライン情報については、後日お知らせいたします。